

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

岡山県立岡山西支援学校

令和7年5月29日(木)

10:00～11:30

出席者

■ 学校運営協議会委員

岡田委員、河田委員、祇園委員、熊代委員、小林委員、澤井委員、武縄委員、荻原委員、宮野委員、村上委員、栗津委員

※欠席：小倉委員

■ 本校職員

小田副校長、兼信事務長、頃末主幹教諭、原田主幹教諭、三宅指導教諭、板野指導教諭、森分進路指導主事、石井教諭

1. 開会

【会長・副会長の選任】

(事務局) 本来は互選であるが、今回は事務局より提案をしたい。会長を岡田委員、副会長を河田委員としたいが、どうか。

(委員) <賛成多数により承認>

* このことにより、学校運営協議会の司会は岡田委員が務めている。

2. 協議

(1) 学校経営計画(校長)

- 昨年度末に承認された計画に沿って運営を進めている。
- 「地域の力をお借りしながら本校の教育活動の充実を図る」「本校から地域へ貢献・発信」という両方の視点を大切にしている。

【学校経営計画について】

- 自立活動の指導の充実…特別支援教育のベースとなる部分。子どもの困り感に寄り添い、根拠を明確にし、職員がチームで計画に基づいた指導・支援が実施できるように、2名の指導教諭が中心になって推進していきたい。昨年度末にアドバイスをいただいた、「引継ぎ」について、自立活動の指導の部分に入れている。
- センターの機能の充実…現在、地域の学校園の依頼に応じて特別支援教育コーディネーターの派遣を行っている。本年度は、本校から学区内の学校に積極的に訪問させていただきたいと考えている。学区内の学校の様子・ニーズの把握を重点的に行いたい。本校で実施する研修会について、地域のより多くの先生に参加してもらえよう、オンラインで実施することも考えている。
- 人権の尊重・適切な指導…令和7年1月に「信頼される学校づくりのために」ということで、県からハンドブック改訂版が出された。指導体制や指導の在り方を見直し、適切な指導・支援ができるような、先生方が自己を振り返れるような研修を行う。現在、各学年団で県が出した資料を基に研修を行っている。今年度から来た先生からの意見(新しい視点)も取り入れながら、本校職員の意見を大切に取り組んでいきたい。

（２）報告「教育と福祉の架橋」（河田委員）

- 資料をもとに報告を行った。

<特別支援学校に進路の係をしていた頃感じたこと>

- 事業所が契約しがない理由として、他害、いたずら、所在不明、窃盗、異性問題がよく挙げられる。
- 「働き続けること」を意識した指導が大切。実習だけががんばればいいのではない。日々の延長線上にイベント（実習等）があるんだという意識が大切。
- 実習のとき、事業所職員は生徒だけでなく、引率に来ている先生のことにもよく見ている。「この先生が指導しているんだから大丈夫」と思ってもらえるように。

<福祉の現場から>

- 日常と非常時がつながるような関わりを意識している。避難訓練も、たとえ雨が降っても、暑くても実施するようにしている。
- 主観的ではあるが、利用者が抱える課題として、
 - ・ 老障介護…おうちの方が動けなくなったらどうなるのだろう
→いろいろなサービスを受けてほしい
 - ・ 健康面…食べることが大好きだが、運動不足の方が多い
 - ・ 絶対的経験不足…成功も、うまくいかなかった経験…内面を育てるいろいろな経験をと捉えている。
- 職員アンケート「学校時代にぜひとも身に付けてほしい力は何か」
 - ・ 対人…あいさつ、感謝、相手に聞こえるように、「分かって」返事できるように、先生（支援者）だけでなく仲間にも伝わるように、相手の長所を見つける
 - ・ 生活…利用日、利用時間の安定化、時間・約束・ルールが守れる（安全に、きちんと事業所まで行ける、事業所で過ごせる）、余暇（支援者と過ごすのも良いが、一人で過ごす力も必要）
 - ・ 作業…スピードよりも正確さや丁寧さを重視している。「１番がすごい」という価値観は△、見通しをもって待つ力
 - ・ 生活…伝える力（特にヘルプ）、自己肯定感

（３）専門部会

- ３つの専門部会（安全・防災部会、福祉・就労部会、教育支援部会）に分かれて協議をする。

（４）全体会

【各専門部会のまとめ】

<福祉・就労部会>

- 働く・働き続けるという中で、働くことだけにフォーカスをあてるのではなく、「生活」「余暇」と三つがバランスよく回っているかに重きを置く。
- 自己決定の経験が大切。それが自分のことを自分ですることにつながっていく
- 家庭との連携について、小中高の積み重ねで将来のイメージをもつということが中々できていない。

- 家庭からの理解を得ることの大切さが話題に。心配かもしれないが、子どもが成長するという
ことで見守る・待つということを理解していただく必要もある。
- 将来働き続けるということについて、まずはしっかり学校に来る、生活を安定させる、いろ
いろな人とつながっていく、いろいろな経験をする、困難を乗り越えていく経験が大切だとい
うことが話題に上がった。

<教育支援>

- ボランティアのこと、公民館活動のことが話題に上がった。
- ボランティアと地域との関わり…地域の方が園芸部の生徒に水やりや植え方などを教え、中
学生が地域で活動する（土日）。
- 本校と地域との関わり…地域の保育園の子どもたちが公民館に遊びに来ているときに、高
等部の生徒が販売に来ていて、そこでの交流がとてもよかった。
- 公民館の活動で余暇につながるもの…フラダンス、高齢者の方の体操教室に参加すること
で異年齢の交流もできるのではないかな
- 地域での活動が相互理解やいざというときの助け合いにつながるの、普段から意識して充
実させていきたい。

<安全・防災>

- 高等部生徒の登下校の際、地域の方から交通ルールについて指摘を受けることがあり、地
域での生活を見越した取組を意識する必要があると感じた。同時に、地域の方からの指
摘を受け入れる力も大切だということが分かった。災害が起こったときに声を掛けやす
い、声掛けを受け入れやすいということに
- 支援者がつい手伝ってしまうことが多い。自分で荷物を持つ、靴を履くなど、こつこ
つと積み重ねていくことが、有事の際の困りを少しでも軽減できるのではないかな。
- 日常と非日常を別物に捉えないことが大切。
- 地域とのつながりとして、あいさつから始めていきたい。その前に支援者がしっか
りあいさつできるように。

(5) いじめ対策について（生徒指導主事）

- 資料をもとに説明を行った。
- 昨年度同様、アンケート等実施しながら小さな変化を見逃さず早期発見ができるよう
心掛けている。
- いじめ対策委員会は年3回設定している。
- 情報共有を密にし、協力体制を取れるようにしておく（教職員にも周知を図る）。

(6) 学校自己評価について（主幹教諭）

- 今年度の実施スケジュールとより結果を分析しやすい質問事項への変更について、
資料をもとに説明を行った。
- 今年度から保護者・教職員のアンケートを統一したものにしている。9月中旬頃
に実施予定。

3. 閉会

【副会長】

- 子どもたちの将来を見据えた意見交換ができた会となり、大変うれしく思えた。